

保育科生の「学習成果の獲得状況」

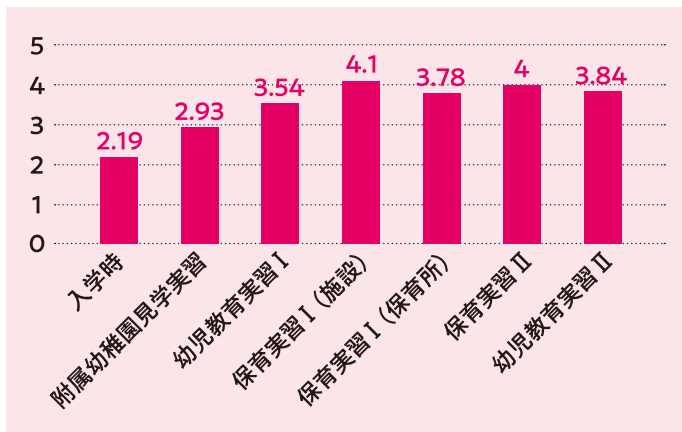
保育科では五つの学習成果を定め、これらの学習成果がどの程度身についているのかを、つまり学習成果の獲得状況を定期的に測定し、学生に全体平均値と共にフィードバックしています。

また学生はそれらのデータも参考にしながら振り返りを行っています。

保育科のカリキュラムは実習をコアにして編成されており、学生は入学時と各実習終了後に振り返りを行っています。

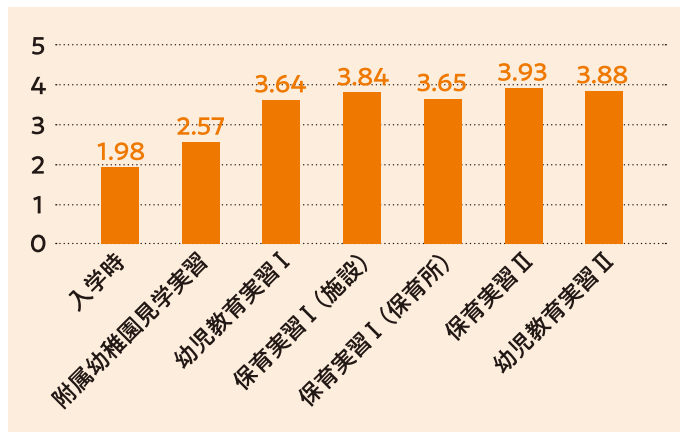
学習成果 1

豊かな人間性を有し、他者を尊重し、良好な人間関係を構築することができる。



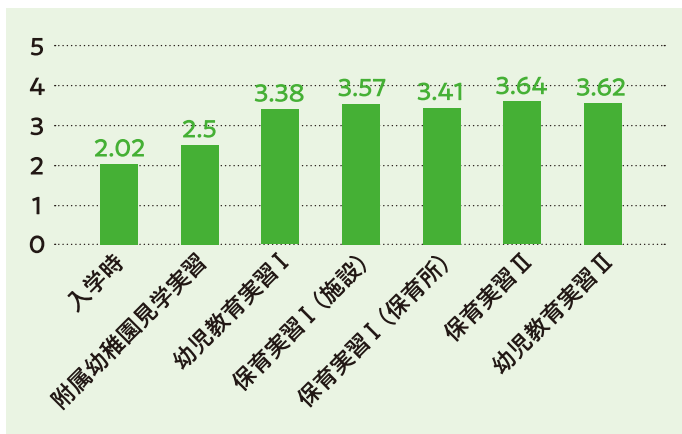
学習成果 2

子どもの成長・発達を理解し、一人ひとりの子どもに適切な援助をすることができる。



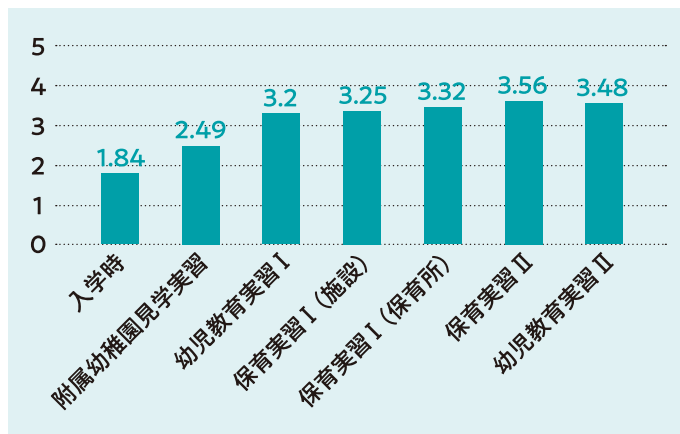
学習成果 3

表現技能・創造する力を修得し、子どもの表現を創造する過程を援助することができる。



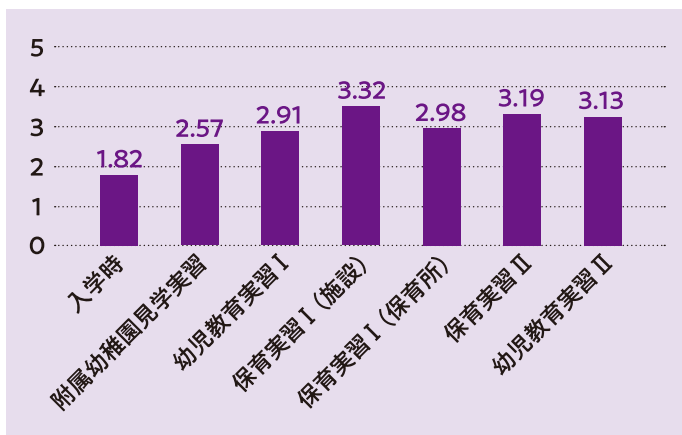
学習成果 4

指導計画を立案し、保育実践を創意工夫し、改善に取り組み、保育の質を高めることができる。



学習成果 5

他者と協働して地域の保育課題に取り組み、提案、発信ができる。



学びを重ねる毎に、必ずしも評価が高くなっていくわけではありません。上がった、下がったりと変化をしています。

学生は実習を経験することによって自身の成長した点を確認できるだけでなく、自分に足りない部分にも気づくことができるからです。

その気づきが更なる学びに繋がっていくため、学生は卒業後も成長し続けることができます。